

# 放課後等デイサービス 夢門塾 自己評価表

○本評価表は、放課後等デイサービスに従事する従業者の方に、事業所の自己評価していただくものです。  
 「はい」又は「いいえ」のどちらかに○を記入するとともに、従業者の視点で、「事業所が工夫していると思う点」や「改善が必要だと思われる点」などについて記入してください。

事業所名 夢門塾ゆうゆう高木3組

公表日 2026年 1月

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0	・活動ごとにスペースを分け、安全に配慮した環境設定を行っている。	混雑時の導線整理やスペース活用の工夫により、安全で快適な環境づくりに努める。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	0	・見守りが必要な曜日に合わせ勤務調整している。	個別対応が多い場合も、職員配置の工夫により安全で丁寧な支援に努める。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	0	・児童の特性に合わせたレイアウト調整を行っている。	個別ニーズへの対応をさらに検討し、丁寧な支援に努める。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	・定期的に清掃、消毒を行い、空調も子どもたちの体感に合わせて調整している。	細部の清掃を徹底し、清潔で安全な環境づくりに努める。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0	・クールダウンのスペースを設ける工夫を行っている。	時間帯によるスペース制限にも対応できるよう、配置や活用の工夫に努める。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7	0	・「私の歩み」で目標を立て実践している。	より明確な業務改善につなげられるよう、現状を分析し、改善策の検討と実施に努める。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	・ミーティングを行い、保護者の意向を理解して業務改善に繋げている。	保護者の意見を分析・共有する仕組みが十分でないため、改善への反映方法を明確化し、より良い支援につなげられる体制づくりに努める。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	・ミーティングを行い、それぞれ職員の意見交流を行い業務改善に繋げている。	意見の記録や改善結果のフィードバックが十分でないため、継続的な改善サイクルを強化し、支援の質向上につなげる体制づくりに努める。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	7	・行っていないが、第三者・訪問者等にいただいた指摘やアドバイスを受けた場合は改善に努めている。	第三者外部評価の機会を設け、支援の質向上に努める。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	・年間スケジュールにて全体また新人職員に対しても研修が開催されている。	法人として外部研修の機会は少ないが、今後は研修参加の工夫や調整を進め、職員の知識・技能向上に努める。
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0	・チームで相談して作成。夢通信にて保護者様に分かりやすく伝える工夫をしている。	詳細事項の周知を徹底し、業務と支援の質向上に努める。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	0	・相談支援事業所と相互内容相違なく計画を立てている。 ・モニタリングを行い、ニーズや課題をしっかりと抽出できている。	アセスメントの整理方法を統一し、より客観的で質の高い支援計画作成につなげる体制づくりに努める。
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	・全職員でケース検討を行い、子どもの最善の利益を共有して支援計画を作成している。	月によって検討児童が多い場合、十分な会議時間が確保できないことがあるため、今後は時間配分や会議方法を工夫し、確実に検討できる体制づくりに努める。
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0	・支援計画を職員間で共有し、日々の支援に反映できるよう努めている。	外国人職員の配置により専門用語や日本語表現の理解に差が出る場合があるため、資料の簡素化や視覚的な共有方法の工夫を進め、職員全体が理解しやすい情報共有に努める。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察など含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	1	・日々の観察記録を活用し、子どもの状態把握に努めている。	観察記録を活用して子どもの状態把握に努めつつ、評価基準を統一し、客観的なアセスメント手法の導入に努める。
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0	・本人支援・家族支援・移行支援を意識して支援目標を設定している。	目標設定は行っているが、具体的な支援内容をさらに明確化し、実践に活かせる支援に努める。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	0	・ミーティングで意見交換を行い、職員間で役割分担をして活動を計画している。	時間的制約に対応できるよう工夫し、確実な検討に努める。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	・季節行事や児童の興味を取り入れ活動内容の工夫を行っている。	新しい活動案の検討を進め、活動のバリエーション充実にも努める。
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7	0	・児童の特性に応じて活動内容や関わり方を調整している。	人員配置に工夫を加え、十分な個別対応が行える体制づくりに努める。
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0	・支援前に情報共有を行い、支援の目的や役割を確認している。	急な変更にも対応できる連絡体制の整備に努める。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	0	7	・重要な申し送りについては行っているが、基本は翌日のミーティングで行い当日は速やかに終業している。	振り返りの時間を確保できるよう工夫し、支援改善に努める。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	・支援内容や子どもの様子を記録し、支援の振り返りに活用している。	記録の統一を図り、状況把握しやすい体制づくりに努める。
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	・定期的に支援内容を確認し、必要に応じて見直しを行っている。	モニタリング結果を支援に反映し、質の高い支援に努める。
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7	0	・運動・生活・学習をバランス良く取り入れた支援を行っている。	活動内容の偏りを防ぐため、計画的な見直しに努める。
	25 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	0	・本人の意思決定を優先できる機会を設けている。	選択が難しい児童への支援方法を工夫し、個別対応に努める。

関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	・児発管を中心に参加できるように調整している。	児発管不在時はサブリーダーに参加を委ね、情報共有に努める。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	0	・必要に応じて、医療・福祉・教育機関と情報共有を行い連携を図っている。	連携や情報共有の方法を統一し、円滑な連携に努める。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	0	・学校と連絡を取り合い、送迎や緊急時の対応を共有している。	情報共有のタイミングを工夫し、迅速で確実な伝達に努める。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	1	6	・必要に応じて情報共有を行っている。	継続的な情報共有体制を整え、円滑な情報共有に努める。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	0	7	・現在その機会を得ていない。	現在はその機会を得ていないが、今後は支援内容や配慮事項を整理し、適切に情報提供できるよう努める。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	0	7	・現在その機会を得ていない。	連携の機会を増やし、継続的な関係づくりに努める。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7	0	・地域行事や外出活動を通して交流の機会を設けている。	活動機会を増やし、子どもたちの多様な体験の提供に努める。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7	0	・関係機関との情報共有のため参加している。	情報共有の機会を増やし、確実な伝達に努める。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	・連絡帳（コドモン）や送迎時に日々の様子を共有している。	情報整理を行い、偏りのない確実な伝達に努める。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	0	7	・市主催の講演会など必要な情報提供は行っている。	研修や家族参加型支援の実施に努める。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0	・契約時に丁寧な説明を行い、理解確認している。	資料や説明方法を工夫し、分かりやすい情報提供に努める。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0	・面談等を通して意向を確認し、支援計画に反映している。	意見を引き出す関わり方を工夫し、支援に反映できるよう努める。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	0	・支援計画を説明し、保護者の同意を得た上で支援を行っている。	説明時間と資料を工夫し、支援計画をわかりやすく共有する。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	・保護者からの相談に随時対応し、必要な助言を行っている。	専門的助言が必要なケースへの対応体制を強化し、支援の質向上に努める。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	0	・行事を通して保護者同士の交流の機会を設けている。	参加しやすい仕組みを整え、円滑な関わりに努める。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	・苦情体制手順を共有し、迅速な対応を心掛けている。	周知方法と記録管理を徹底し、確実な情報共有に努める。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	0	・お便り（夢だより）やブログ、HPを活用し、活動情報を発信している。	更新頻度と情報の分かりやすさを工夫し、理解しやすい情報提供に努める。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	・個人情報管理のルールを守り、職員間でも注意喚起を行っている。	確認機会を増やし、確実な情報把握に努める。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	・児童の特性に合わせた伝え方や支援ツールを活用している。	職員間で支援方法を統一し、一貫した支援に努める。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	0	・法人内の行事に事業所が参加をしている。	地域連携の機会を増やし、情報発信に努める。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0	・職員はマニュアルを周知して行動するように心掛けており、訓練を実施している。	ご家族への広報を工夫し、周知の徹底に努める。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	・業務継続計画に沿って運営しており、全児童が訓練の機会が得られるように行事を計画している。	訓練内容の工夫により、実践的な技能向上に努める。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0	・契約時のプロフィールで健康情報を確認し、対応方法についても確認を行っている。	情報更新のタイミングを徹底し、確実な共有に努める。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	0	・契約時、除去食依頼書を提示してその指示に従っている。	誤食防止の体制を強化し、安全確保に努める。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0	・災害マニュアルが策定されている。	実践的な研修や訓練の機会を増やし、職員の技能向上に努める。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0	・お便り（夢通信、夢だより）での報告や電話連絡、コドモンでの連絡で保護者に周知している。	周知内容の理解度確認を徹底し、正確な把握に努める。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	・データ記録を行い、職員内で振り返りを行っている。	活用の仕組みを整え、個人任せにならない体制に努める。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	・年間スケジュールで研修の機会を得ている。	研修や家族参加型支援の実施に努める。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	0	・現在その機会はないが、体制づくりは行っている。	実践的な研修や具体事例の共有を進め、職員の技能向上と支援の質向上に努める。

保護者様評価、自己評価についてまとめ

日々の連絡や相談対応について高い評価をいただき、安心して利用できているとの声が多くありました。一方、活動内容や情報発信については改善の余地があり、今後の課題として取り組んでいきます。  
支援体制や安全管理は概ね整っている一方、外部機関との連携や支援の質向上が今後の課題として挙げられました。計画的な改善を進めていきます。